

**国際友好交易**

**20周年突破し総出荷本数5000万本！  
日中結ぶ健康飲料「美露仙寿」**

(東京)

**株**

株式会社国際友好交易が発売している「美露仙寿」。1991年の発売以来、現在までに累計5000万本以上を出荷した健康飲料だ。



眞子 達男 社長

クコシ、サンザシ、ヨカシ、キツカ、ロッカクレイシ、タイソウ、ハトムギという厳選された7種類の天然植物が原料。日本輸入食品に関する420の厳格な検査項目をクリアして輸入している。日本の医師のアドバイスを基に、これらの原料を関連会社の国際漢方研究所(福島県)の工場で、

独自の技術でバランス良く配合して生産している。

人気の秘訣は各種アミノ酸やビタミン・ミネラルを豊富に含んでいること。保存料・添加物を使用していないため、乳幼児から高齢者まで安心して飲める。

「現在まで6万人以上の方に愛飲して頂いています。リピーターが多いのも特徴。集中力・記憶力が必要な受験生にもおすすみたいです。」(眞子達男社長)

熊本県の崇城大学薬学部研究チームは「美露仙寿」の健康効果に注目。5年にわたり研究し昨年7月にデンマーク・コペンハーゲンでの世界薬理学会で臨床データを発表、高評価を得た。

2010年のGDP(国内総生産)で、日本を抜いて世界第2位が確実になるな

ど経済成長の著しい中国だが、沿海部に比べて内陸部は依然貧しい状況にある。

実は、同社はずっと中国へのボランティアを目的に設立された背景がある。父親の経営する企業で専務を務めていた眞子社長は、日本語講習所を建てる計画に参加することになった。

「建設費は賄えたが、設備の維持管理や講師の給与など運営にも大きな費用が掛かる。そこで、資金を捻出するために設立したのが当社です。元中国駐日特命全権大使の楊振亞氏の助けもあって「美露仙寿」の販売を決定しました。」(眞子社長)

以後、中国政府から感謝状を授与されるなど民間レベルでの日中友好を支えてきた同社。設立20周年の祝賀会は、一企業としては異



22年のロングセラー「美露仙寿」(1箱15本×30本)

例の、いわば日本の国会議事堂にあたる中国の人民大会堂で盛大に行われた。

**中国に新しい小学校を健康増進と社会貢献の両立**

創業以来の精神にのっとり、NPO法人日本グローバルグリーン協会を設立して砂漠の緑地化と中国の貧しい地域に小学校を設立する運動にも取り組んでいる同社。眞子社長は専務理事を務め、北京を皮切りにこれまで内モンゴルなどで3つの小学校を建設寄贈。パソコンなど最新設備が整う学校は、子供達が通学を切望するほどの人気ぶりだ。

同社は新しい働き方の提案もしている。60歳など定

年以上の人は、人生のゴールにいたるのではなく知識経験・人脈を生かして社会に貢献する使命を持つと捉え、積極的に製品の販売に携わってもらっている。眞子社長は次のように話す。

「製品を通じて多くの方々に健康と働く喜びを伝えていきたい。年内に新しい小学校も建設したいです。」(森)

**【会社データ】**

本社 東京都千代田区神田3-6-1 さんしんヒロセビル7F  
 ☎ 03-5296-0121  
 設立 1989年3月  
 資本金 2000万円  
 事業内容 健康飲料・健康食品の製造・販売  
<http://www.meirusenju.jp>